

20:1 さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。

20:2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」

20:3 そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。

20:4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。

20:5 そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。

20:6 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。

20:7 イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

20:8 そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。

20:9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。

20:10 それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

主イエスの復活の第一証言は、墓に行った人によるものです。彼らはそのような重要な使命をいただいたのですが、実はまだ「イエスが死人の中からよみがえらなければならない」ということを知らなかったとあります。実際、聖書に書いてあるその預言と必然性を人類は誰もまだ理解していなかったのです。それでも彼らが目撃者となり得たのは、彼ら

の信仰の在り方によります。

それは、まずイエスを愛して墓に行ったのです。期待も希望も砕かれて意気消沈している中で、イエス様に従った過去の意味もなくなっていました。それでも彼女たちはイエス様への愛を表したのです。私たちも、目的や期待に増して、相手のことを純粹に愛しているかどうかが問われます。

また兄弟姉妹と行動を共にしたのです。ペテロともうひとりの弟子（ヨハネ自身と考えられます）は、マリアたちの話を聞いて遺体がないことを知って、墓へ急いだのです。一緒に行動することはクリスチャンの力です。共に体験し、共に感じ、共に働くことができるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

